

令和6年度 学校評価報告書

学校名

三田市立上野台中学校

1 学校教育目標

「夢や未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成」

2 今年度の学校重点目標

- (1)「学力」の向上に向けた授業改善の工夫（充実した授業、質の高い授業）
- (2)「対人関係能力」の育成（人権尊重、生徒指導、開かれた学校）
- (3)職場環境の整備〔生徒に向き合う時間の確保〕
（協働して支え合う<<チーム上野台>>、勤務時間の適正化）

3 総合的な自己評価

創立五十周年の今年度、生徒、保護者の達成感、満足感と持続可能な運営業務とのバランスをとった、令和型学校行事が実施できたと考えている。学校評価アンケートで「分かりやすい授業」に生徒保護者共に90%以上が肯定的評価をつけたことは誇らしいことであるが、一方で保護者の肯定的評価が75%であった「学力向上」については、教職員の更なる実践的授業力向上はもちろん、子どもたちの学習習慣の確立や意欲醸成について、保護者と共に進めていきたい。「先生は生徒の頑張りを認めている」が生徒保護者合わせて90%の肯定的評価であったことは、「共感的生徒指導」を学校教育目標実現の柱にしている本校としてはうれしいことである。生徒保護者共に強い要望のある部活動については、地域移行に向けて丁寧に進めていきたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校経営全般に良くやっていたいただき感謝している。小中一貫教育を大切にし、小学校への出前授業は継続してほしい。人間教育を進めるうえで、先生とのやり取り、班活動での生徒間のやり取り、頑張りを認める声掛け、自分の考えを発信する・できる雰囲気づくりを心がけてほしい。今後も委員として地域の声を伝えたい。異学年交流は中学校生活を充実させ、人との縦、横のつながりを作っていく上でとても重要な取り組みだと思う。ぜひ継続してほしい。テーマを公表してもらえるとありがたい。部活動の地域移行については、課題も多いと思うが、校区を上あげて取り組んでいきたい。保護者の評価からも、今年度の目標はほぼ達成されたと思う。

5 評価結果

| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 |
|---------------|---|---|---|---------------------------------------|
| 分野・領域 | 評価項目(取組内容) | 評価結果及び分析 | 改善の方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
| 教育課程 学習指導 | 基礎基本の定着と、ひとり一人が「確かな学力」を身に着けるための「分かる授業」「楽しい授業」「伸びる授業」の創造 | 生徒97%保護者90%が「授業が分かりやすい」に肯定的評価だった。今後も教師の授業研修を継続発展させていく。 | 生徒の自主学習確立について「自主学習タイム」や「異学年交流」を有効活用していく。学習スタイルの具体例を明示資料として作成し提示する。 | 異学年交流を高く評価する。担任以外との関係作りや人間教育も期待している。 |
| | GIGAスクール構想によるICTを活用した効率的・効果的な学習指導の実践、及びその共有 | 教科授業に加えて、道徳や学活での活用率も上がったが、個人のスキルアップにとどまっている状態。 | 各個人の取り組みを学校全体の教育資源として活用する仕組みを作る。教育活動の「手段」としての活用を意識する。 | ICT活用は補助として思考能力向上には従来型学習が不可欠。 |
| 生徒指導 いじめ防止 | 教育相談等の充実を図り、多様性を尊重した共感的生徒理解に基づく生徒指導や特別支援教育の視点を持った支援 | 生徒指導委員会を中心に組織的に対応できている。小中連携も一定の成果を上げている。道徳教育とも関連付けて取り組めた。 | SC、SSW、特別支援教育担当による校内研修を実施する。子どもサポーターも加え、校内サポートルームの充実を図る。 | 自尊心向上と一定のルール作りの両立を目指してほしい。 |
| | 本校「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に対して迅速かつ組織的な対応 | 生徒92%保護者88%が「いじめや暴力がなく安心」と肯定的評価だったが、意見を言える雰囲気、について保護者の評価が下がった。 | いじめ対策チームの周知徹底、生徒指導委員会と普段の情報交換それぞれを両輪として、いじめを見逃さない組織づくりを更に進める。道徳での人権意識を醸成する。 | いじめの形態が変わっていることにも注視すべき。 |
| 保護者、地域住民等との連携 | 中校校区のめざす子ども像を共有し、『三方よし』(学校・生徒保護者・地域)を目指す取り組み | 生徒指導、キャリア学習、情報教育、特別支援教育など各担当で校区の情報共有がなされた。創立五十周年を地域と共に祝えた。 | 継続して小規模校、不登校対策といった校区共通の課題について夏季校区職員合同研修会で取り組み、「みんなで育てる」地域づくりを推進する。 | 子どもの問題行動は保護者の関りが大きい。保護者研修が必要。情報提供の期待。 |
| | 学校から積極的に情報を発信し連携を深め、地域の教育力を活用した「ふるさと三田」を意識した教育環境づくり | 創立五十周年の節目に校区内の名所古刹について学校だよりで紹介した。生徒が歌詞を考えた記念歌を式典で披露できた。 | 学校運営協議会を中心に、学校現場の課題を、地域の目標として共有し、組織的に取り組む仕組みを作る。 | 地域の人たちと顔の見える場所づくりを望む。 |
| 研修・資質向上 | 教職員一人ひとりが実践的指導力の向上を図れるように、学習指導の工夫や授業改善を意識した研修体制の充実 | 道徳人権研修、各教科公開授業、ICT機器を活用した学活など、研鑽をつめた。生徒指導委員会をOJTとして位置づけ職員の育成の場になっている。 | 授業力と共感的生徒理解を実践的指導力の柱に据え、講師の招聘も含め、校内研修を充実させていく。一教科一人を弱みにせず、他校の授業実践を定期的に紹介するなど、実践情報の収集に努める。 | ICT機器活用の推進と共にSNS利用についても検討すべき。 |
| | 業務改善を推進しつつ、教科指導や生徒指導、人権教育や安全教育等の領域で地域や家庭に信頼される学校づくり | 超勤時間の適正化が進んだ。一人が担う分掌が多く、業務のスリム化・効率化と教育活動の質の担保を両立する必要がある。 | 定例の行事委員会や校務分掌検討委員会で常時、現状の教育活動を見直す習慣づけを行う。業務縮小と内容充実の両立を模索する。 | 教員数が減少しているにもかかわらず目標をクリアしていることを評価している。 |